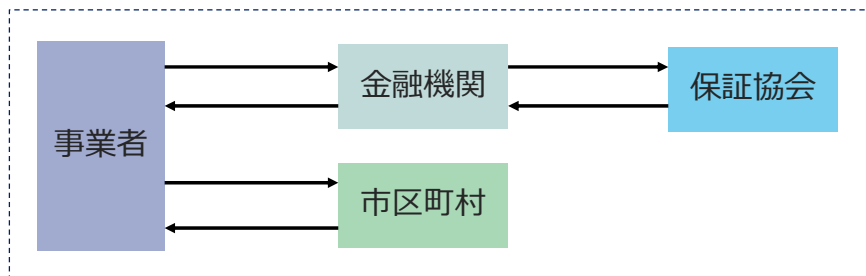


1. デジタル化の背景と経緯

(1) 無利子・無担保融資の開始前の申請手続き（～4/30）

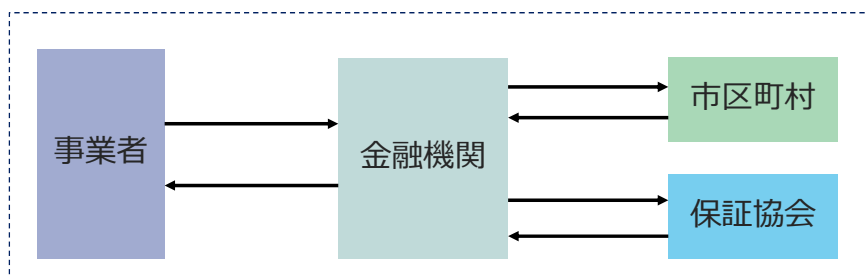


(1) 市区町村窓口で事業者が殺到（3密）

【事業者】申請手続きで事業に専念する時間が縮減

【市区町村】事業者への説明で事務が輻輳

(2) 金融機関によるワンストップ手続き（代理申請）（5/1～）



(2) 市区町村窓口で金融機関が殺到（3密）

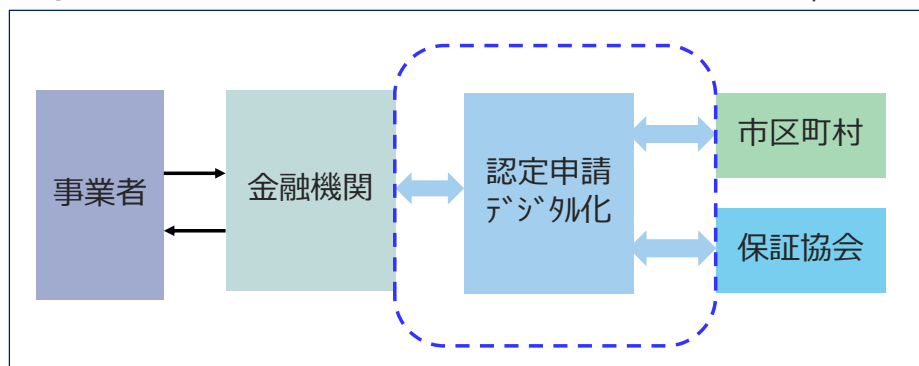
【事業者】事業に専念する時間が確保

【市区町村】説明等の時間が削減（概ね1/3に低減）

【金融機関】代理申請事務で事業者支援の時間が縮減

⇔ ヒト・モノの動き

(3) 認定申請のデジタル化（今回のシステム）（8/11～）



(3) 市区町村窓口の3密解消（自然災害時にも対応可）

【事業者】事業に専念する時間が確保

【市区町村】印鑑レス対応、業務の最適化

【金融機関】事業者支援の時間が確保

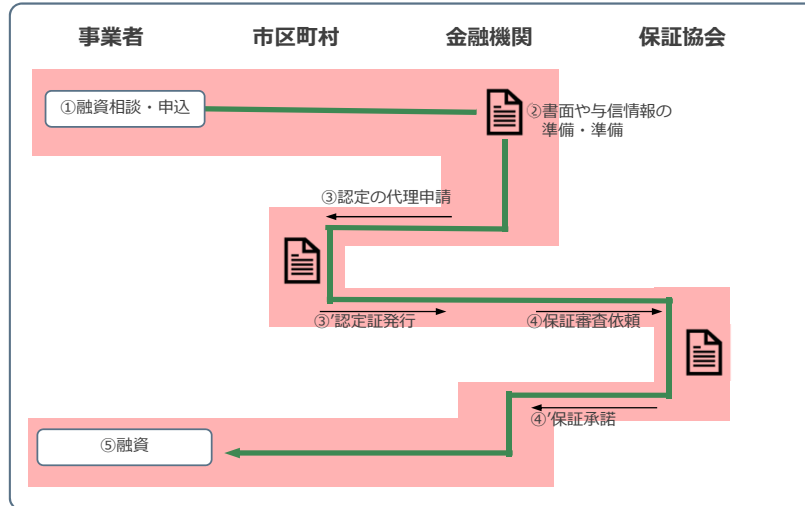
《参考》石川県信用保証協会におけるこれまでの取組（電子化の素地）

平成23年度	保証稟議書類の電子化
平成26年度	SN保証5号モニタリング報告の電子データ授受
平成30年度	保証申込関係書類の電子メール受領
令和2年4月	認定申請支援ツールの独自リリース

認定申請事務のデジタル化について

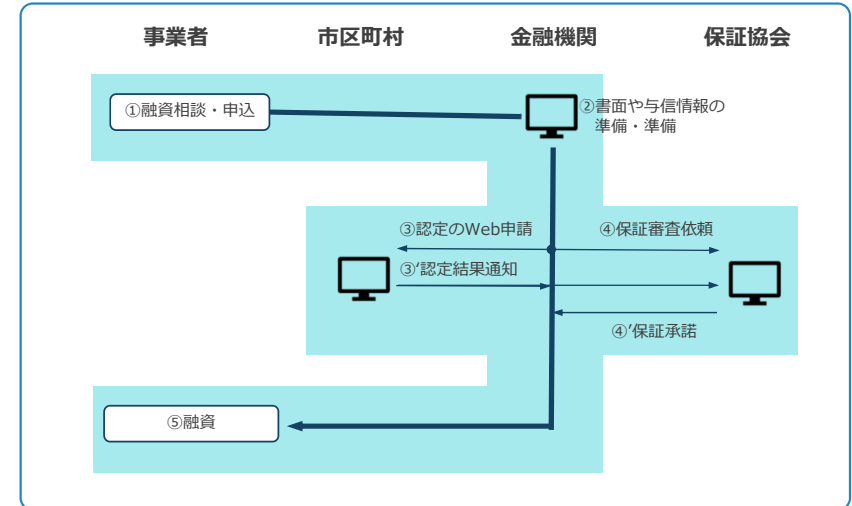
2. デジタル化のシステム概要

従来の申請事務 シリアル（直列的）な人の動き



- ◆ 事業者
融資を受けるまでに時間がかかる
- ◆ 金融機関
市区町村窓口まで行って手続きしなければならない
待ち時間、翌日受領等、物理的な時間ロス
- ◆ 市区町村
窓口受付～認定まで時間がかかる
窓口対応に事務作業が追われる
- ◆ 保証協会
特に事務負担なし

認定申請のデジタル化 パラレル（並列的）なデータの流れ



- ◇ 事業者
融資までの時間が短縮できる
- ◇ 金融機関
市区町村窓口への訪問が削減できる
事業者様との面談、訪問時間が確保できる
- ◇ 市区町村
窓口業務と通常業務の最適化が図れる
印鑑レス認定が導入できる（電子承認）
- ◇ 保証協会
認定申請数が事前に把握できる（急増への備え）

変革

デジタル化により、物理的な「人」の動きから「データ」の流れへ

認定申請事務のデジタル化について

3. デジタル化の本質（目的と意義）

課題

コロナ禍で厳しい経営状態にある
「地域の事業者さま」のために

- ・スピーディな資金供給
- ・本業支援への環境整備

対応

民間金融機関による無利子・無担保融資が開始された直後の5月中旬から、金融庁様、中小企業庁様による支援の下、石川県、県内市町、金融機関、保証協会が地域の事業者様への「想い」を一つにして、システム構築に取り組み、8月11日から運用開始

※構想から実稼働まで3ヶ月

目的と意義

個々の組織（金融機関・自治体・保証協会）の効率化ではなく、地域（面）での**全体最適化**

※石川県内全19市町が参加、運用開始（県内全域カバー）

+

単なるスピードアップだけではなく、事務手続き時間を削減し、**事業者支援**の時間を捻出

※5地方銀行、5信用金庫が参加（石川県内シェア96.9%）

本質

デジタル化の本質は「**地域の事業者支援のため**」の時間を捻出すること